

120. ^{57}Co -Bleomycin による頭頸部腫瘍の診断

名古屋大学 放射線科

大野 晶子 金子 昌生 佐々木常雄
同 耳鼻咽喉科 伊藤 明和

〔序論〕 ^{57}Co - 標識 Bleomycin を用いて, Scinciphoto による頭頸部腫瘍の診断, 及び放射線, 手術, 抗癌剤併用療法による治療の経時的变化を観察する事により患者の治療状態を決定する一手段とした。

〔方法〕46例の患者(上顎23例, 喉頭10例, 舌7例, 鼻2例, 咽頭4例)について照射治療との関係において, 1) 照射開始前又は, 開始直後(再発例も含む), 2) 2,000~3,000rads 照射時, 3) 照射終了後10日~20日, の3回にわたり, Nuclear Chicago Pho Gamma/Ⅲによる Scinciphoto 撮影を行った。 ^{57}Co -Bleomycin 500 μCi を肘静脈より静注し, 静注後, 3~4時間及び20~24時間において Scinciphoto を撮影した。

〔結果及び結論〕1) 照射開始時のものは, 原発巣に関して, 全例に hot area を認め, リンパ節転移及び他臓器への遠隔転移は, 80%位が確認された。その他, T_0 の症例で原発巣を発見出来たもの2例, N_2 の症例で hot area を認めず, バイオプシー陰性となったものが一例あった。2) 2,000~3,000rads の照射時, 経過良好のものは, hot area が縮少の傾向を示し, 増悪のものは, むしろ大きくなる傾向が認められた。3) 終了後は, hot area は, 大体(±)か(-)になるが, バイオプシー陰性となる事も確められた。

以上の事から, この方法は悪性腫瘍の局在及び侵襲範囲の診断と照射効果の判定に用いられる可能性があると考えられる。

121. ^{57}Co -Bleomycinによる頭頸部悪性腫瘍の補助的診断法について(続報)

東邦大学 耳鼻科

高須 昭彦 名越 好古 臼井 信郎
山口 治
同 第1内科 森下 健
同 放射線科 黒沢 洋 丸山 雄二

我々は先に, 耳鼻咽喉科領域の頭頸部悪性腫瘍16症例に対して, ^{57}Co -BLM を使用したシンチフォト, 或いはフォソダックカラー分析器によるイメージ化により, ^{57}Co -BLM のシンチカメラが悪性腫瘍の補助的診断法としてかなりの診断効果をあげ得るという成績を得, これを報告した。

そこで我々は更に疑悪性腫瘍症例に対して ^{57}Co -BLM を使用し, 症例を追加したのでこれらを総括するとともに, 悪性腫瘍の中には腫瘍の大きさと関係なく ^{57}Co -BLM の集積の低いもの或いは殆んど集積を示さないものがあることを知った。病理組織学的には, 扁平上皮癌, 移行上皮癌, 粘表皮癌, 類上皮癌等であった。腫瘍の発生細胞或いは組織学的悪性度と陽性度との関連は臨床的に腫瘍の治療といった面でも興味深いものがある。しかし陽性度は, 腫瘍の部位・大きさ・深さ等の因子によってかなり異なるので, 一率に数量化することは困難であるが, これらの点も考慮して検討したので報告する。